

## 国立民族学博物館研究報告 vol.2-1; 表紙, 目次ほか

雑誌名	国立民族学博物館研究報告
巻	2
号	1
発行年	1977-03-28
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10502/00009266">http://hdl.handle.net/10502/00009266</a>

1977・3

21<sub>卷1号</sub>

# 国立民族学博物館 研究報告



## 論文

文章完成法テストよりみたイタリア人のパーソナリティ：

日本人およびアメリカ人との比較分析——— 祖父江孝男

竜神（竜女）説話と竜舟祭（1）——— 君島久子



## 資料・研究ノート

民俗音楽の概念についてのひとつの試み——— 櫻井哲男

ハヌヌー・マンガン社会の構成について——— 宮本 勝

ニューギニア高地における一時的狂気の構造——— 中山和芳

九州地方の民家研究展望——— 杉本尚次

関東地方のタケカゴ細工の展開——日本列島におけるカゴ細工の諸系列(2)——— 中村俊亀智

中央アンデスのチャンカイ文化と天野博物館について——— 藤井龍彦



国立民族学博物館

〒565 大阪府 吹田市 千里 万国博記念公園 TEL 06-876-2151

# 国立民族学博物館研究報告

2 卷 1 号

1977年 3 月

## 目 次

### 論 文

- 文章完成法テストよりみたイタリア人のパーソナリティ：  
日本人およびアメリカ人との比較分析……………祖父江 孝 男…… 1
- 竜神（竜女）説話と竜舟祭（1）……………君 島 久 子…… 34

### 資料・研究ノート

- 民俗音楽の概念についてのひとつの試み……………櫻 井 哲 男…… 63
- ハヌヌー・マンギャン社会の構成について……………宮 本 勝…… 84
- ニューギニア高地における一時的狂気の構造……………中 山 和 芳…… 123
- 九州地方の民家研究展望……………杉 本 尚 次…… 141
- 関東地方のタケカゴ細工の展開  
——日本列島におけるカゴ細工の諸系列（2）—— ……中 村 俊 亀 智…… 172
- 中央アンデスのチャンカイ文化と天野博物館について……………藤 井 龍 彦…… 196

### 調査研究活動報告

- 東アフリカ収集調査ノートより……………和 田 正 平…… 227

### 彙 報

- 国立民族学博物館研究報告寄稿要項…………… 242
- 国立民族学博物館研究報告執筆要領…………… 243

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

---

Vol. 2 No. 1

March 1977

---

SOFUE, Takao	Italian Adolescent Personality as seen through the Sentence Completion Test: Some Comparisons with the Japanese and American Patterns .....	1
KIMISHIMA, Hisako	The Legends of the Dragon God (Dragon Daughter) and the Dragon Boat Festival (1) .....	34
SAKURAI, Tetsuo	Folk Music: A Critical Review of its Concepts and Definitions.....	63
MIYAMOTO, Masaru	Social Order of the Hanunoo-Mangyan.....	84
NAKAYAMA, Kazuyoshi	The Temporary Madness in New Guinea Highlands.....	123
SUGIMOTO, Hisatsugu	Introduction to the Study of Rural House in Kyushu.....	141
NAKAMURA, Takao	Basket-working in Japan (2): Kantō Area.....	172
FUJII, Tatsuhiko	On the Chancay Culture in the Central Andes and the Collection of Amano Museum .....	196
WADA, Shohei	Notes on the East African Ethnological Collection.....	227

彙報

(昭和51年10月～  
昭和51年12月)

人事異動

昭和51年

10月1日 吉屋敏昭を事務官(管理部庶務課)に採用

金森孝之を事務官(情報管理施設資料室)に採用

堀田 穰を事務官(情報管理施設資料室)に採用

向山 彰を技官(情報管理施設資料室)に採用

飯島善明を技官(情報管理施設技術室)に採用

岡倉治己を技官(情報管理施設技術室)に採用

栗田靖之を助教授(第2研究部)に採用

垂水 稔を助教授(第3研究部)に採用

小山修三を助教授(第4研究部)に採用

松山利夫を助手(第1研究部)に採用

大森康宏を助手(第3研究部)に採用

山本紀夫を助手(第3研究部)に採用

山本順人を助手(第5研究部)に採用

上田 進(管理部庶務課庶務係長)は、管理部庶務課課長補佐に昇任

弓場 宏(大阪大学医学部経理掛長)は、管理部会計課課長補佐に昇任

森川国雄(大阪大学産業科学研究所経理課用度掛調達主任)は、管理部庶務課共同利用係長に昇任  
松浦光雄(管理部会計課)は、

管理部会計課用度係長に昇任

福井勝義(東京外国語大学助手アジア・アフリカ言語文化研究所)は、助教授(第3研究部)に昇任  
篠田隆夫(管理部庶務課共同利用係長)は、管理部庶務課庶務係長に配置換

杉田繁治(京都大学助教授工学部)は、第5研究部に配置換

本庄 清(管理部会計課用度係長)は、大阪大学歯学部経理掛長に転任

11月1日 明渡志郎(大阪大学理学部)は、管理部会計課に転任

平林 誠(大阪大学教養部)は、管理部企画課に転任

小谷凱宣(熊本大学助教授法文学部)は、第1研究部に配置換

11月15日 植田啓二(情報管理施設資料室)は、辞職

展示企画委員会委員の異動

1 新任

昭和51年11月25日

廣瀬 智生 大阪府企画部  
文化振興室長

2 再任

昭和51年11月15日

五十嵐道子 朝日放送株式会社  
事業局事業部

大貫 良夫 (財)人間博物館  
リトルワールド主任  
研究員

大林 太良 東京大学教授  
(教養学部)

川添 登 建築評論家

小松 左京 作家

高田 宏 エッソ・スタンダード  
石油株式会社  
広報部

田邊 員人 九州芸術工科大学教授  
(芸術工学部)

谷 泰 京都大学助教授  
(人文科学研究所)  
多比良 稔 九州芸術工科大学教授  
(芸術工学部)  
中尾 佐助 大阪府立大学教授  
(農学部)  
中山 和彦 筑波大学教授  
(電子・情報工学系)  
米山 俊直 京都大学助教授  
(教養部)

ヨーロッパ展示  
大森康宏  
アフリカ展示  
福井勝義  
西アジア展示  
杉村 棟  
東南アジア展示  
関本照夫, 宮本 勝  
東アジア(日本文化)展示  
大塚和義, 松山利夫, 泉 幽香

**展示企画委員会専門委員の異動**

昭和51年10月1日付けで下記のとおり展示企画委員会専門委員が再任された。

辻 三郎 大阪大学教授(基礎工学部)

**館内各種委員会委員の追加**

**映像・音響委員会**

小谷凱宣, 栗田靖之, 福井勝義, 大森康宏,  
山本紀夫, 宮本 勝

**研究部運営委員会**

松山利夫, 石森秀三, 山本順人

**広報委員会**

垂水 稔

**出版・編集委員会**

垂水 稔, 小山修三

**情報システム委員会**

栗田靖之, 小山修三, 杉田繁治, 山本順人

**展示委員会**

小谷凱宣, 大森康宏

**図書委員会**

山本紀夫

**標本整理委員会**

福井勝義, 松山利夫

**HRAF委員会**

杉田繁治

**展示のためのプロジェクト・チームの増員**

**アメリカ展示**

小山修三, 山本紀夫

**館内合同研究会**

昭和51年

10月19日 「共同制作の問題」

木村 重信

10月26日 「秩父地方調査報告」

中村俊亀智

「礼文島調査報告」

大塚 和義

11月9日 「国立民族学博物館コンピューターに何をのぞむか」

中村俊亀智, 栗田 靖之,

杉田 繁治ほか

12月14日 「食用野生植物の加工方法について」

松山 利夫

「中央アンデスのイモ類加工法をめぐって」

山本紀夫

**共同研究活動**

(\*は共同研究員として委嘱した館外研究者)

1 共同研究班の追加

「民族学におけるコンピュータ利用に関する研究——博物館データベース設計法の研究——」

代表者——中村俊亀智

班 員——栗田靖之, 小山修三, 杉田繁治, 長尾 真, 山本順人

2 共同研究員の追加

「うつわ(器)の用具論的研究」

班 員——\*宮内 愨, \*近森 正

「民間信仰の民族学的研究」

班 員——\*森田三郎

海外における研究・調査・収集活動

氏 名	所 属・官 職	出 発	帰 国	行 先
泉 幽 香	(第5研究部助手)	51.10.5	51.10.14	大 韓 民 国
大 森 康 宏	(第3研究部助手)	51.10.26	52.5.31	フ ラ ン ス
杉 田 繁 治	(第5研究部助教授)	51.12.11	51.12.20	ベ ル ギ ー

来館者記録抄

昭和51年

- 10月7日 西 朋太(京都大学原子エネルギー研究所長)  
 Tomas SUGIHARA (アメリカ合衆国 Texas A. & M. University, Cyclotron Laboratory 所長)
- 10月18日 吉井 良三(京都大学工学部教授)
- 11月4日 岡崎 正孝(大阪外国語大学助教授)
- 11月9日 安田 武(武庫川女子大学)
- 11月15日 中澤源一郎(ブラジル日本文化協会会長・ブラジル日本移民史料館建設委員長)  
 安立 仙一(ブラジル日本文化協会事務局長)
- 11月29日 Luis Guillermo LUMBRERAS (ペルー国立人類学考古学博物館長)  
 José Correa ORBEGOSO (ペルー国文化庁記念物保存部長)  
 江原 昭善(京都大学霊長類研究所教授)
- 11月30日 平井 一正(神戸大学工学部教授)  
 大島 襄二(関西学院大学文学部教授)
- 12月1日 藤岡 喜愛(愛媛大学教養部教授)
- 12月8日 柳川 啓一(東京大学文学部教授)

- 金 宅 圭(大韓民国嶺南大学校教授)
- 洪 淳 昶(大韓民国嶺南大学校教授・文理科大学長)
- 12月14日 樋口 敬二(名古屋大学教授)
- 12月16日 Richard PEARSON (カナダ・ブリティッシュ・コロンビア大学教授)
- 12月17日 稲田 浩二(京都女子大学教授)
- 12月21日 齊藤 広志(ブラジル・サンパウロ大学教授)

受 賞

- 加藤 九祚  
 第3回大佛次郎賞 昭和51年10月9日付け  
 『天の蛇——ニコライ・ネフスキーの生涯——』
- 松原 正毅  
 昭和51年度流沙海西奨学会賞  
 昭和51年11月14日付け  
 「トルコの村の家族と親族——南西アナトリアの一村の事例から——」
- 君島 久子  
 昭和51年度日本翻訳文化賞  
 昭和51年12月4日付け  
 『西遊記』(上・下)(吳承恩作)
- 谷 泰  
 第3回日本ノンフィクション賞  
 昭和51年12月13日付け  
 『牧夫フランチェスコの一日——イタリア中部山村の生活誌——』

## 国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
  - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織、運営に関与する者
  - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
  - (3) その他本館において適当と認められた者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のスマ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、編集委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当っては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市山田小川41の1（日本万国博覧会記念公園）

国立民族学博物館内

国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表 06-876-2151）



## 国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限り、図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。  
[柳田 1942: 67-69]  
[Leach 1961: 123]  
[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]  
ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。  
[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]
9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。
  - (1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。
  - (2) 文献の記載は、著者名、年号、論題(タイトル)、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本文の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』13(4): 311-330.

Bohannan, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14(4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店, pp. 117-143.

Leach Edmund,

- 1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse.  
In Eric H. Lenneberg (ed.), New Directions in the Study of Language,  
The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

- 1966 『文明をもった生物』 日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

- 1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

- 1974 『シャーマニズム——古代のエクスタシー技術——』 堀 一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

- 1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 2卷1号

編集委員

石 森 秀 三	関 本 照 夫
伊 藤 幹 治 (編集委員長)	垂 水 稔
江 口 一 久	松 原 正 毅
小 山 修 三	宮 本 勝
杉 本 尚 次	

編集事務協力

石 元 宏 勉

---

昭和52年3月22日印刷  
昭和52年3月28日発行

非売品

国立民族学博物館研究報告 2卷1号

編集・発行 国立民族学博物館

〒565 吹田市山田小川41-1

TEL 06 (876) 2151 (代表)

印刷 中西印刷株式会社

〒602 京都市上京区下立売通小川東入

TEL 075 (441) 3155 (代表)

---

Bulletin of the National Museum of Ethnology  
vol.2 no.1  
March 1977

- |                            |  |
|----------------------------|--|
| <b>SOFUE, Takao</b>        | <b>Italian Adolescent Personality as seen through the Sentence Completion Test: Some Comparisons with the Japanese and American Patterns</b> |
| <b>KIMISHIMA, Hisako</b>   | <b>The Legends of the Dragon God (Dragon Daughter) and the Dragon Boat Festival (1)</b>  |
| <b>SAKURAI, Tetsuo</b>     | <b>Folk Music: A Critical Review of its Concepts and Definitions</b>   |
| <b>MIYAMOTO, Masaru</b>    | <b>Social Order of the Hanunoo-Mangyan</b>   |
| <b>NAKAYAMA, Kazuyoshi</b> | <b>The Temporary Madness in New Guinea Highlands</b>   |
| <b>SUGIMOTO, Hisatsugu</b> | <b>Introduction to the Study of Rural House in Kyushu</b>  |
| <b>NAKAMURA, Takao</b>     | <b>Basket-working in Japan (2): Kantō Area</b>   |
| <b>FUJII, Tatsuhiko</b>    | <b>On the Chancay Culture in the Central Andes and the Collection of Amano Museum</b>  |

ISSN 0385-180X



National Museum  
of Ethnology

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan  
phone 06-876-2151